

ふるさとのうた

剣淵文化協会俳句部会



雅なる寄り添ひ傘や冬じつり

仲町 玉野 研一

湯豆腐や身の上話に着を置く

旭町 宝澤 房子

嬰兒の小さき手足冬ぬくし

西原町 児玉 久美子

白髪的笑ひ声和小六月

緑町 池田 良子

暖炉もゆ遠くを語る祖母となる

西岡町 渋谷 みさ子

大空へ裸木そびえ銀杏かな

南桜町 宮腰 幸子

復習さらふ孫の鍵盤照らす冬晴れの間

西町 金澤 頼子

新米を洗い今年を省見る

元町 印牧 安子

平成のよなき支え山眠る

緑町 齋藤 嘉子

思い出は引き出しの奥去年今年

仲町 坂部 和子

霜予感しまい忘れて鉢二つ

元町 西崎 弘子

雁渡る父祖のふる里秩父山

屯田町 古屋 克江

白菜を漬ける傍ら夫の笑み

仲町 梅基 文子

沢庵漬け母の残したメモ頼り

旭町 大河 博子

あれこれ思いはつきぬ十三夜

西町 岸波 君江

短冊にかすれ文字書く文化の日

西町 杉浦 とし枝

白菜の溢れる樽に父の味

藤本町 鈴木 ゆき子

アネモネに懐かしい人思ひおり

東町 高草木 喜代子

旅先の牡蠣の炭焼き笑みこぼる

西岡町 高瀬 久美子

帰る子へ土もいしよに葱持たす

東町 高橋 世津子

白葱の香りを汁に安らぎぬ

西町 文梨 清子

凍裂や眠れぬ真夜の遅脈音

仲町 芳賀 星子